
この世の理（ことわり）

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この世の理^{ことわりの}

【コード】

N18070

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

今私達が生きている世界。それを私なりの解釈で書いています。

1 (前書き)

初めにも申しますが、これは現存する宗教等を中傷・批判するものではありません。

はじめに

これは、世の中に存在する宗教等を中傷・批判するものではありません。

この世とは…。

この世、すなわち現在存在しているこの世界の事ですが、俗に俗世と申します。

俗世ぞくせとは、低俗なモノ及び俗物の住む世界を指し、地球上又はこの世界に存在する全ての生き物が低俗なモノ、俗物であるとしているのです。

そして、その反面を指す言葉が常世じょうよです。

常世とは…。

常世とは俗に言われるあの世の事です。

ここでは俗に言われる『天界』『天国』とさせて頂きます。

字の如く常に存在する世界と言う意味で、実質こちらが現在だと考えています。

常世が現在。俗世があのだ世と言う訳です。

そうです。俗世則ち、この世こそが『地界』『地獄』という訳

です。

1 (後書き)

信ずる者は救われる。信じたい人、信じて下さい。
一度この世を去ろうとした私が悟った内容です。

どういう事かと言つと…

話しは変わりますが、生き物には業ごう、カルマというモノが付き纏まといます。

これが、いわゆる寿命です。

命は業を浄化しながら生をまっとうし、新たな業を積み上げていくのです。

自分は業など積んでいないと言つ方も多くおられるでしょう。…しかしながら、それは全くの勘違いです。

何故かを申しますと、生物は必ず生物を補食して生存します。それ則ち業です。人が虫や動物・人・植物を殺す事もまた業であると言つ事になります。

そして、この業を拒否する事が、すなわち死に繋がります。しかし、それを妨げるモノがいるのです。

妨げるモノとは…。

『死』それは、俗世からの離脱に他なりません。

しかし、俗世より離脱する事を拒むモノがあります。

それは、…鬼…です。

鬼とは…

鬼とは、それは、死に対する恐怖・拒絶・死を望むモノへの救済・医療（延命治療等）等です。

しかしこのままでは…

この節理を肯定するならば、常世の存在が、と思われた方も少ないと思います。

ここで、話さなければならぬのが、転生輪廻の法則です。

転生輪廻の法則…

俗世・常世。この二つの次元の中間に転生輪廻の輪と言われる次元が存在します。

転生輪廻の輪とは、俗世においてその生物の持っていた業を浄化した後に、新たな業を持ちて加わる輪です。

この輪の中から新たな命が、業を浄化すべく俗世に転生し、業を浄化し、業を貯えて帰するのです。

それでは、何故常世は存在するのでしょうか。

それは、……業を全く持たないモノが存在する為です。

業を全く持たぬモノ…

それは、俗世に命として降り立ったものの、生を全くまっとうせず、俗世より帰したモノ達です。

死産等に該当する命だと考えて頂ければ幸いです。

そう、この命だけは業を持たぬモノとして常世に転生することが可能となる訳です。

そしてそれ以外の業を持つモノ達は転生輪廻を繰り返すのです。存在数比例の法則を礎に。

存在数比例の法則…

俗世の命は絶対的定数に基づき存在しています。

少子化が進む国があれば、人口増加率が急激に上昇している国があったりと。

おわりに…

こうして世界は、存在しているのです。この中で私達は命を燃やし、業を浄化しながら業を積み上げているのです。

この世こそが『地獄』。

そう考えたら少し楽になりませんか？

初めにも申しましたが、これは他の宗教等を中傷・批判するものではありません。

『信ずる者は救われる』と言われるように、信じた人・信じる人・何か救われたような気がするだけ、『そっか』って思って頂ければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1807o/>

この世の理（ことわり）

2010年10月9日18時10分発行